

# 【平成 21 年 8 月 台風 9 号による現地被害概要】

## 【被害概要】

・今回の水害で特に大きな被害を生じた佐用川は 2 級水系千種川の（流域面積 754 k m<sup>2</sup>）の上流支川である。

・ 2009 年 8 月 9 日に発生した集中豪雨は、佐用町において大規模な氾濫を引きおこし、家屋の損壊や多数の死傷者、行方不明者を生じた。

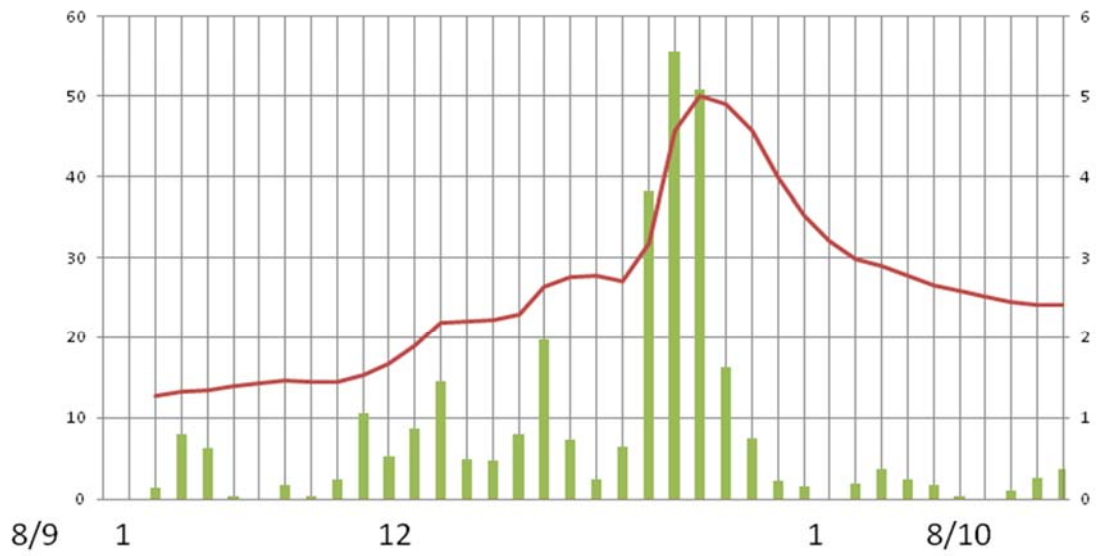
・ 8 月 9 日に発生した降雨状況及び佐用地点の水位状況は以下の通りである。

降雨は、佐用水位観測所（佐用町役場近傍）より上流域内に位置する上石井、三河、佐用、佐用（気象庁）の時間雨量を単純平均したものを示している。

8 月 9 日は午前中から 10mm 以下程度の降雨が続いていたが、20時から降雨強度が急激に強まり、20時から22時の3時間の雨量は 144mm に達した。

佐用観測所（氾濫危険水位 3.8m、堤防天端高約 4.8m、右岸が若干低い）の水位も 20時から急上昇しており、22時に最高水位 5.01m、3時間の水位上昇量は約 2.5m に達した。

・ その他の主な観測所における最高水位と到達時刻は以下の通りである。



佐用地点水位と佐用川上流域平均雨量



観測所・水位		
観測所名	設置河川	最高水位(時刻)
佐用水位	佐用川	5.01(22:00)
円光寺	佐用川	8.4(23:00)
千種	千種川	2.63(23:00)
上三河	千種川	3.34(22:00)以降欠測
米田	千種川	3.39(25:00)
久崎	千種川	計測不良
上郡	千種川	6.24(25:00)
木津	千種川	6.11(27:00)
三日月	志文川	2.2(25:00)
米田	志文川	3.39(25:00)

## 【河川の氾濫状況】

久崎地区の左岸で堤防の決壊、佐用町右岸で堤防の決壊、幕山川本郷地区の左岸で越水が発生し、氾濫した痕跡が見られた。

## 【佐用川における被害状況】

※人的被害（平成21年9月11日11:30消防庁情報より）

- ・河川敷で水没した車両から54歳が遺体で発見
- ・自宅で86歳女性が水死
- ・自宅近くで81歳女性が水死
- ・濁流に巻き込まれて3名が死亡（40歳女性、16歳女性、4歳女兒）
- ・佐用川付近で72歳男性が遺体で発見
- ・幕山川付近で2名が遺体で発見（40歳男性、7歳男児）
- ・佐用川沿いで32歳女性が遺体で発見 円光寺西側付近で49歳男性が遺体で発見
- ・横坂集落で40歳男性が遺体で発見
- ・見土路橋で54歳男性が遺体で発見
- ・山脇大橋東側で47歳女性が遺体で発見
- ・仁位集落で14歳男性が遺体で発見
- ・上月三叉路付近で身元不明の女性が遺体で発見
- ・上月地区で48歳男性が遺体で発見
- ・仁位集落で15歳女性が遺体で発見
- ・他2名行方不明

※家屋等被害（兵庫県 千種川水系の調査値を抜粋：国土交通省災害情報平成21年9月11日15:00現在）

家屋被害						
水系	河川	市町村	浸水家屋数	浸水家屋数	家屋損壊数	家屋損壊数
		市町村	床上（戸）	床下（戸）	全壊（戸）	半壊（戸）
千種川	千種川	上郡町	41	76		17
千種川	千種川・佐用川	佐用町	179	905	161	735

## 【佐用川における既往の水害について】

佐用川及び千種川上流域では、過去にも度々水害による被害を受けている。特に、昭和49年7月、昭和51年9月には大規模な被害が発生しており、昭和51年9月の24時間雨量は上郡等で800~900mmに達している。また、比較的近年では、平成10年10月に佐用町で129mmの雨が降り、床上浸水15件が発生した他、平成16年には台風21号による被害を受けて、河床の土砂浚渫や最高水位にあわせて護岸壁を約1メートルかさ上げするなどの工事を行っていたが、今回は当時と同じ場所での最高水位より約1.70メートル高い8.40メートルまで水位が上昇し、またも氾濫した。水害を防ぐためには氾濫地点近くの川幅を変えるなどの抜本的な改修工事が必要という。平成16年度の台風21号では、佐用川の堤防が壊れたり護岸壁を越えて水があふれるなどして、310戸が浸水。特に川が屈曲した地域にあたる円光寺地区では堤防が76メートルにわたって決壊した。県は復旧工事として、川底に堆積（たいせき）した土砂を除去し、決壊地点の最大水位（6.75メートル）にあわせ、護岸を約1メートルかさ上げした。さらに17年末には、佐用川下流の千種川の川幅を広げるなどの改修の基本方針を決定。今年3月によりやく国に承認され、工事に着手したところだった。今回は、最高水位が8.40メートルにまで上昇した。勢いを増した濁流が護岸の内側をえぐり、16年と同じ場所が損壊した。円光寺地区では佐用川の左岸の護岸が250メートルにわたって損壊し、その下流地域の久崎地区でも70メートルにわたり損壊した。